

月刊

軽音楽部

発行：特定非営利活動法人全国学校軽音楽部協会
配布：全国2,040校の高等学校軽音楽部



生徒の主体性を大切にした部活動運営 羽鳥拓志

横浜清風高等学校 フォークソング部 顧問

基本を笑う者は基本に泣く！

みんなでできる基礎練習

スケール練習 ギター・ベース編

スケール練習 ボーカル編

キーボード基礎練習

YouTube の演奏映像を見るポイント

軽音協イベント・カレンダー／音楽・エンタメ業界の仕事 2025

2025

2

VOL.83



月刊 軽音楽部
バックナンバー



軽音楽部員必見
デジタル版記事

目標に向かって、チャレンジしよう！

第6回
高等学校軽音楽コンテスト
関東大会

2025 3.25 TUE 入場無料 会場：国立オリンピック記念青少年総合センター 大ホール
10:00-18:30 東京都渋谷区代々木神宮町3-1

主催：特定非営利活動法人全国学校軽音楽部協会／公益財団法人 かけはし芸術文化振興財団
後援：文化庁
特別協賛：日本工学院専門学校、日本工学院八王子専門学校、専門学校東京ビジュアルアーツ、アカデミー・オブ・ソング、フランス・ジャパン株式会社

お問い合わせ：特定非営利活動法人全国学校軽音楽部協会
TEL：045-913-0901 info@nksnkyo.org

第9回
高等学校軽音楽コンテスト
近畿北陸大会

2025 3.29 SAT 入場無料 会場：宇治市文化センター 大ホール
13:00-18:30 京都府宇治市所蔵台1丁目1番地

主催：特定非営利活動法人全国学校軽音楽部協会／公益財団法人 かけはし芸術文化振興財団
後援（前回同様）：文化庁、府県教育委員会、京都府教育委員会、兵庫県教育委員会、奈良県教育委員会、和歌山県教育委員会、滋賀県教育委員会、福井県教育委員会、七尾市教育委員会

お問い合わせ：特定非営利活動法人全国学校軽音楽部協会
TEL：045-913-0901 info@nksnkyo.org

第11回
高等学校軽音楽コンテスト
中部大会

2025 3.30 SUN 入場無料 会場：名古屋文理大学 文化フォーラム 中ホール
13:00-18:30 稲沢市民会館 愛知県稲沢市正明寺3-114

主催：特定非営利活動法人全国学校軽音楽部協会／公益財団法人 かけはし芸術文化振興財団
後援（前回同様）：文化庁、愛知県高等学校文化連盟、愛知県教育委員会、岐阜県教育委員会、静岡県教育委員会、三重県教育委員会、名古屋市教育委員会

お問い合わせ：特定非営利活動法人全国学校軽音楽部協会
TEL：045-913-0901 info@nksnkyo.org

オリジナル楽曲募集
応募締切 5/31±

第3回 全国高等学校軽音楽部
オリジナルソング
グランプリ

バンド 弾き語り DTM GarageBand インスト（歌なし）

詳しくはこちら

全国約4,800校の 高校に軽音楽部を！

※現在、軽音楽部があるのは**2,042校**です（令和6年11月1日当協会調べ）

軽音楽部の諸活動を通して若者の成長を応援しています

1 軽音楽部を知ってもらおう

軽音楽部は、部活動としての歴史が浅く、古いポピュラーミュージックやバンドへの偏見も一部に残っており、正しく認知されていないのが現状ですが、軽音楽を通じた部活動の有意義さを学校内外へ広めましょう

2 地域や社会に貢献しよう

軽音楽部の活動は、日々の練習や演奏会などへの出演、大会やコンテストへの参加だけにとどまらず、音楽を通して、地域や社会貢献につながる活動をしましょう

3 自主自律した部活動を目指そう

学校教育の一環と言われる部活動のひとつとして、VUCA* と呼ばれる、正解のない時代に翔ける人間の育成を目指し、生徒自身が考えて行動する部活動を目指しましょう

*VUCA（ブーカ）とは、Volatility（変動性）、Uncertainty（不確実性）、Complexity（複雑性）、Ambiguity（曖昧性）という4つの単語の頭文字をとった言葉で、先行きが不透明で、将来の予測が困難な状態を意味します

当協会の理念や活動内容にご賛同いただける方々のご寄付をお待ちしております
詳しくはこちらまで…



特別賛助会員の皆様（敬称略／順不同）

株式会社ミュージックネットワーク	ギブソン・ブランド・ジャパン株式会社
公益財団法人かけはし芸術文化振興財団	フェンダーミュージック株式会社
一般社団法人サトヤマカイギ	有限会社エムエージー
名古屋芸術大学	株式会社トップトラベルサービス
宝塚大学	株式会社福々家（モアリゾート、ホテル寺尾温泉）
日本工学院専門学校／日本工学院八王子専門学校	音楽ロッヂ ゆうげん荘
専門学校東京ビジュアルアーツ・アカデミー	株式会社オーティーズ
専門学校名古屋ビジュアルアーツ・アカデミー	株式会社サウンドハウス
専門学校大阪ビジュアルアーツ・アカデミー	株式会社池部楽器店
名古屋スクールオブミュージック＆ダンス専門学校	

特定非営利活動法人
全国学校軽音楽部協会
keionkyo.org



■月刊 軽音楽部 VOL.83 ■創刊：平成25年12月18日（水）■新創刊：令和6年3月25日（月）■第14巻2号通巻83号
■監修・発行／特定非営利活動法人（NPO法人）全国学校軽音楽部協会 JASLMC（Japan Association of School Light Music Club）
〒224-0003 横浜市中区中川中央1-37-6-405 TEL：045-913-0901 FAX：045-913-1900 E-Mail：info@keionkyo.org
■企画・編集／株式会社ミュージックネットワーク

interview



受賞校顧問に聞く

生徒の主体性を大切にした部活動運営……4

横浜清風高等学校 フォークソング部 顧問

羽鳥拓志

YouTubeの演奏映像を見るポイント……12

軽音協イベント・カレンダー……15

contents

基本を笑う者は基本に泣く！

みんなでできる基礎練習……6

スケール練習 ギター・ベース編

スケール練習 ボーカル編

キーボード基礎練習

音楽／エンタメ業界の仕事2025

マネージャーの仕事

日本工学院専門学校／日本工学院八王子専門学校……16

音響の仕事（ライブハウス）

専門学校大阪ビジュアルアーツ・アカデミー……18

From Chief-In-Editor

他者に学ぶ。先駆者の経験に学ぶ

全国には高等学校が約4,800校あります。ほぼすべての高校の文化祭では、体育館などを使用してバンドのライブ演奏が出し物としてあると思いますが、部活動が存在するのは約4割の2,000校に過ぎません。当協会では、日頃の練習成果を発表する場として、3つの地域でブロック大会を開催しています。具体的には、関東大会、中部大会、近畿北陸大会の3地域で、参加対象となる高校数は約1,500校、全国の軽音楽部の75%をカバーしています。

その3地区では、大会の回を重ねていく度に演奏のレベルが上がり、高校生の伸び代の大きさに毎度驚かされるのですが、他方で、コンテストでの上位入賞を目指すあまり、競争に走ってしまう傾向が出てきているのも事実です。軽音楽部は芸術や文化を対象にした部活動であり、運動部のように優劣がはっきりと客観的に現れるものではありません。にもかかわらず、どのようにすれば審査員から高評価を得られるだろうという意識が働いたり、1位を逃すと明らかに意気消沈した表情で表彰式に臨む姿を見ると心が痛みます。大会が終

わる度に今回の審査はどうだったのかと議論を重ねています。が、音楽に優劣はありませんので、審査結果に正解はありません。

悩んだ挙句…他の文化部活動の評価方法から学べないかと考え、（愛知県の）高等学校文化連盟の中から、吹奏楽専門部、郷土芸能専門部、演劇専門部の部会長に、それぞれの専門部ではどのように評価基準を決め、誰がどのように審査しているのか、率直に聞いてみることにしました。結果は本文にまとめましたが、どの部活動も同じような悩みを持ち、長い歴史の中で試行錯誤を繰り返し、現在の方法に落ち着いたというのがオチでした。3つの専門部の歴史は長く、戦前から活動している部もあり、それに比べて軽音楽部の歴史はものすごく浅く、戸惑うのも無理はありません。今後は先駆者に学び、議論を重ね、試行錯誤を繰り返すことが大切だ…と、ぐるっと回って、当たり前の結論に達しました。

特定非営利活動法人全国学校軽音楽部協会 理事長 三谷佳之

入賞校顧問に聞く

顧問や部員が代わっても変わらない、将来を見据えた「持続可能な部活動」を目指して

生徒の主体性を大切に
した部活動運営

羽鳥拓志

横浜清風高等学校フォークソング部顧問

●「第2回 全国高等学校軽音楽部オリジナルソング・グランプリ（インスト部門）」での受賞、おめでとうございます。受賞した山口智美さんは、どんな生徒ですか？

羽鳥…普段からユーモアに溢れている生徒で、周りの友人も笑顔にさせるような子です。いつも面白い生徒なのですが、楽器の練習などにはすごくストイックに取り組んでおり、とことん突き詰めていく姿勢が見受けられるので、そのあたりは不思議なバランス感覚があると感じています。友人との関係性も良好ですし、好きなことをどんどん追求していくタイプです。部の中でもムードメーカー的な存在で、周りからも慕われている子です。

●現任校への着任時期や顧問歴は？

羽鳥…私が本校に赴任したのは今から5年前なので、2020年です。非常勤講師として着任し、その後、専任の教諭になりました。フォークソング部の顧問としては、今年度で3年目です。楽器は中学3年生の頃にギターを始めて、そこか

らちよこちよと触っている感じです。顧問になったキッカケは、たまたま私も高校時代に軽音楽系の部活動に所属していたというのもあるのですが、前任の顧問の先生が定年退職されるタイミングだったこともあり、私が顧問を引き継ぐ形になりました。

●部員数やバンド数、コーチなどは？

羽鳥…実質的に活動しているのは1年生と2年生ですが、3年生も含めると、部員数は95名です。そのうちの28名が3年生なので、1・2年生は67名になります。一部のバンドを除いて、固定のバンドを組んでいないので、演奏会やイベントなどがある度に少し変動しますが、大体15バンドくらいで活動しています。コーチや外部の指導者などはおらず、3名の顧問がローテーションを組んだり、運営を分担しています。

●普段の活動と年間を通した行事は？

羽鳥…平日は火曜日以外は毎日行ってお

り、土曜日や日曜日は学校の行事で演奏したり、地域のイベントや大会などに参加する際の練習日として活動することがあります。

年間を通した行事については、例えば、4月に新入生歓迎会があり、そこで演奏を披露するほか、6月に新入部員が演奏するライブを開催しています。8月に行っている定期演奏会では、優れた演奏を披露したバンドや動画を撮影して提出したバンドが、9月に開催される「清風祭」という本校の文化祭のステージで、演奏することが出来ます。

11月には「保土ヶ谷バンドバトル」という地域のイベントがあり、そこに参加しているほか、部内での演奏会を12月に行っています。2月と3月にも演奏会を予定しており、隔月ほどのペースで演奏を披露する機会があります。

普段の練習については、バンドで音出しができる部屋は「音楽室」の1か所なのですが、もう一部屋、教室をお借りしており、次のバンドが練習に入るまでの

待機場所、兼個人練習のスペースにしています。アンプに接続せずに、生音でチャカチャカと練習している感じで、個人練習は教室などで行い、音楽室ではバンドでの「合わせ練習」に徹しています。音楽室でのバンド練習は毎日ローテーションを組んでおり、練習時間を決めていきます。平日の活動時間が15時40分から18時20分までなので、各バンドが40分ずつ、毎日5バンドほどが練習しています。また、定期的に「部会」も行っているのですが、全員が出席して、打ち合わせや確認事項などを共有しています。

●貴校ならではのユニークな活動は？

羽鳥…いろいろと考えてみたのですが、やはり「清風祭（文化祭）」に最も力を入れていると思います。ここで優れた発表をした団体に賞が授与されるのですが、「賞が欲しいよね」ということで、毎年力を入れて取り組んでいます。ありがたいことに、昨年と今年の清風祭で、フォークソング部が賞をいただき、部員一同、

大喜びでした。

他にも、卒業する3年生を送る会（予餞会）が毎年行われており、これはフォークソング部だけでなく、3年生全員に向けて、演奏を披露しています。カッコつけるわけではないのですが、普段よりも楽しく、おかしく演奏したり、3年生を明るく送り出すような曲を披露して、会全体が盛り上がるように取り組んでいます。

●部活動を運営する際の方針や目指しているものは？

羽鳥…今、大切にしているのが、SDGsじゃないですが、「持続可能な部活動」というのをテーマにしています。顧問の先生は学校の運営上、どうしても代わってしまうタイミングが来ると思っています。幸い、私は顧問を3年間続けられていますが、その先も変わらないかという、それはわからないことですし、いつかは定年退職を迎えるタイミングが来ます。そういった顧問が交代するタイミングで、部活動の方針がガラッと変わってしまったら、あるいは活動自体が続けられなくなってしまうことがないように、いかに「運営システム」として確立させることができ、部員たちに受け継いでもらっているか…という部分に注力しています。

具体的には、部長や副部長だけでなく、演奏会を取り仕切る「ライブ委員」や校内で宣伝したり、外部に向けた広報活動を行う「広報委員」など、部長以外の役職を設けています。すると、それぞれの仕事内容が細くなり、生徒自身もきちんと理解することが出来ます。あとは、それらの細かい役職内容をどんどん次の

世代に継承していけば良いので、顧問が代わったり、部員たちが卒業していても、これまで築き上げてきたものが無駄になることはないですし、結果的に長く続いていく部活動になると考えています。実際、昨年度まで所属していた生徒に楽器は演奏しないけれど、フォークソング部に所属していた子がいました。部活動の運営や演奏会のサポートをするのに興味のある生徒だったので、部活動の新しい方向性や可能性を感じることができました。

●貴校の部を一言で表すと、どんな部活動ですか？

羽鳥…一言で表すのは難しいのですが、思い浮かべるのは「成長期」かな…ということですね。3年前にフォークソング部の顧問になり、「どうすれば、もっと部活動を楽しくでもらえるかな？」という部分に注目し、運営してきました。「周りのみんなが部活動をやっているから、私も入りましょう」というのではなく、自ら積極的に取り組み、楽しみながら活動してもらえよう、いろいろと試行錯誤しながら進めている成長期の段階です。まだまだ改善点は多いですが、少しずつ部員たち一人ひとりに役割ができてきており、顧問が「ああしなさい、こうしなさい」と指示をしたり、リードするのではなく、「どんな部活動にしていきたいのか」を一緒に考えていける雰囲気になりつつあり、現代風で言うところの「生徒の主体性」を基軸にした部活動へと変貌を遂げているところです。

インタビュー・三谷暢之



羽鳥拓志

1997年神奈川県生まれ。横浜清風高等学校専任教諭（地歴・公民）。部員となかなか音楽の話が合わないため、こっそり自分が好きなバンドを布教しようとしていた。今のところうまくいっていない。

基本を笑う者は基本に泣く！

みんなのできる基礎練習

スケール練習 ギター・ベース編

ギターやベースを弾く上で習得しなければならないことはたくさんあります。音楽理論などの知識はもちろんですが、一番大事なことは「弾くという動作」のシェイプアップです。無駄のないフィンガリングやスムーズなピッキング（ベースの指弾きの場合は弦へのタッチ）の練習をすることが上達への鍵となります。弾く動作をシェイプアップすることで様々なフレーズが弾けるようになり、正確なフィンガリングやピッキングによってサウンドも向上します。

今回はスケール（音階）を使つてのトレーニングを紹介するので、同時にスケールも覚えられ、音楽的にも楽しく練習することができると思います。音楽雑誌などに掲載されている「メカニカル・トレーニング」にはテクニカル系、特に速弾きの養成を目的としたものが多く見受けられますが、本来は右手と左手のバランスを良くすることを目的で行うものです。もちろんテンポを速くすれば、速弾きのエクササイズにもなりますが…。

メカニカル・トレーニングをする際に注意すべきポイント

トレーニングをする際の注意点は、まず両手の動作を意識的にコントロールできる状態のテンポで行うことです。練習では生徒が弾けると思っているテンポよりも遅く、余裕を持って弾けるテンポで行ってください。なお、ただエクササイズ・メニューをこなすだけではなく、弾いている中で以下の注意点がきちんとできているかを意識するようにアドバイスしてください。

左手の運指は始点とした指から必ずフレットに沿って、順次それぞれの指で押さえるようにしてください。例えば、人差し指で5フレットを押さえたなら、7フレットは必ず薬指で押さえるようにします。手が大きい人でも中指で押さ

えてはいけません。他の弦に移動する際に始点となる指がフレットを移動する場合などは特に注意しましょう。使いやすい指で押さえてしまわないようにします。また、基本的に弾いていない指も指板から離れないことが大切です。これは弾いていない弦を他の指でミュートして、関係のない音まで鳴ってしまわないようにするためです。さらに、指板を押さえている指は次の指が指板に着く前に離さないことも重要です。意識しすぎて、指が指板に残ってしまってもダメです。指が入れ替わる瞬間に、同時に指板から指を離すように心がけましょう。

右手の動きは規則性を保ちながらリズムの中でピッキングやフィンガリングをしなければなりません。ピックの場合もベースの2フィンガーの場合もオルタネイト（アップとダウンのピッキングや人差し指と中指のフィンガリングを規則的に交互に繰り返すこと）で行い、フレーズにリズムを伴った状態で弾くことが重要です。

ギターやベースを弾くということは単純に言

えば、指板上の左手で押さえている弦を右手で弾（はじ）くだけのことなのですが、意外にこれが難しいものです。ゆっくりなテンポから以上のような注意点を守って、地道に練習していきましょう。

クロマチック・スケールを使った半音進行エクササイズ

メカニカル・トレーニングの導入部としては「クロマチック・スケール（半音階）」が良いでしょう。実際はクロマチック・スケールを弾くわけではなく、半音でつながった音を弾いて、各指の動きの独立性のみを目指したエクササイズになります。個々で自分の音を聴ける環境があれば良いのですが、無理な場合はアンプにつながずに生音で行ってください。

まず人差し指で6弦1フレットを弾き、それを始点に残りの3本の指を2、3、4フレットと半音ずつ弾いて、1弦まで上昇していきます。戻る時は最後に弾いた1弦4フレットの

小指を5フレットにズラし、今度は小指を始点に下降ラインの半音進行で6弦まで戻ります（図1）。これを1フレットずつズラして、12フレットまで連続で繰り返します。

慣れてきたら、4本の指の弾く順番をパズルのように入れ替えて様々なパターンで弾くと、さらに効果的です。右手もオルタネイトのピッキングをアップから始めたり、ベースの2フィンガーを違う指から始めたりすると、右手の自由度を増す練習になると思います。

符割りは4分音符のメトロノームに対して、4分音符、8分音符、16分音符、3連符など、レベルに応じて複数行うと良いでしょう。応用編として、2拍ごとに4分音符→8分音符→16分音符→3連符という具合に符割りを変化させたりするとリズムに対しての柔軟性が養われます。

すべてに言えることですが、体のどこかで必ずリズムを取りながら弾くことが大事なポイントです。レベルによって、例えば、初心者是一片足で、経験者は両足で交互になど、変化を付けても構いませんが、最終的には体全体でリズムを感じながら弾けることが目標です。リズムを取る足は弾くことに支障がない程度になるべく大きく取るようにしてください。リズムの取り方が小さいと、リズムのズレを自覚症状として感じにくくなります。初心者でテンポについていけない生徒がいたら、テンポを倍で取るなど、確実に行えるようにアレンジしてみてください。

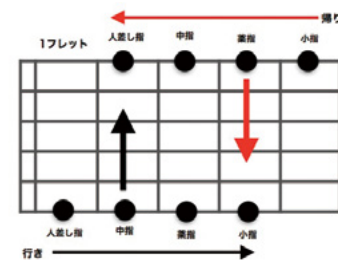


図1 ベースの場合は5フレットからでもOK

楽器を弾かずに白地図を書いてまずスケールのポジションを覚える

「スケールを覚える」ということに限って言えば、いきなり楽器を使って練習するのはあまりオススメしません。譜面を見ながら運指練習をしていると、途中で譜面から目を離れた途端に、どこを弾いているのかわからなくなるからです。まず指板上のポジションを「形」として目で把握するという意味で、指板の白地図を作って、スケールの音の位置を記入しましょう。6弦と5弦（ベースは4弦と3弦）は音名で書き、とりあえず他は黒丸でもOKです。ルート（1度、スケールの出発点となる音）で使うことが多い低音弦の指板の音をこの機会に一緒に覚えてしまいましょう。

Cメジャースケールを使ったエクササイズ

半音進行での運指練習の次は、半音と全音で隣り合う部分を両方持つダイアトニック・スケールで行います。基本のスケールである「Cメジャースケール」は調号（＃やb）がないので指板の音を覚えやすく、完璧にマスターすれば、アベイラブルノート・スケール（コード上でメロディーに使うことが可能な音を音階として表したもの）をすべて網羅することができるので、最適です。

今回のメカニカル・トレーニングではスケールを覚えるというよりは、そのポジションを使

って練習することがメインになるので、必ずしもルートから弾き始めるわけではありません。したがって聴感上、メジャースケールには聴こえないので、注意してください。白地図に書いたCメジャースケールを5つのブロック（図2～6、ベースの場合は3弦～6弦がベースの1弦～4弦に相当します）に分け、それを地図に記入させてください。これを1つずつ練習していき、最終的にはブロックAから順次、続けて弾けることを目指します。ポイントは始める音をしっかりと確認してから弾くことです。各ブロックを覚えることでフレーズの幅が広がり、将来的には他のスケールにも対応できるようになります。このエクササイズはクロマチック・スケールの時よりも運指に規則性がないため、右手と左手の動きをしっかりと意識して行わないとバラバラになってしまうので、注意してください。レベルを見ながら、でき具合によってはテンポをクロマチック・スケールの時よりも遅くして、より確実に行いましょう。

メカニカル・トレーニングは「指板を指で押さえる」「弦を弾く」という単純なことがどれだけスムーズにできているか、がとても重要になります。これらのことは体に覚えさせる以外に方法がないので、毎日少しずつでも良いので、行ってください。はじめはなかなか思うように弾けないと思いますが、続けることが最も大切です。演奏する前に行うウォーミングアップにもなるので、腱鞘炎などの予防にもなります。

文・岩尾 徹

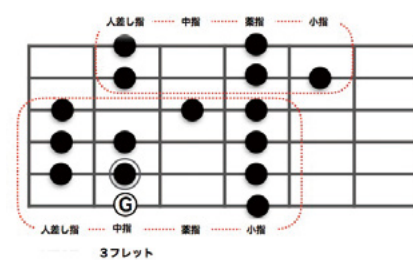


図2 Cメジャースケール ブロックA

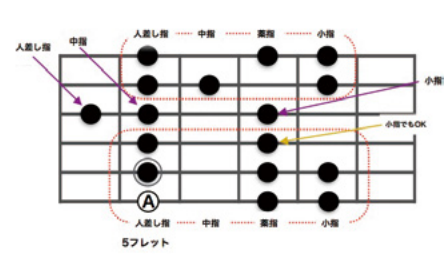


図3 Cメジャースケール ブロックB

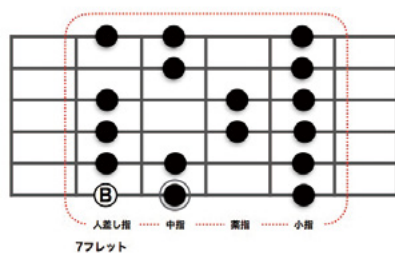


図4 Cメジャースケール ブロックC

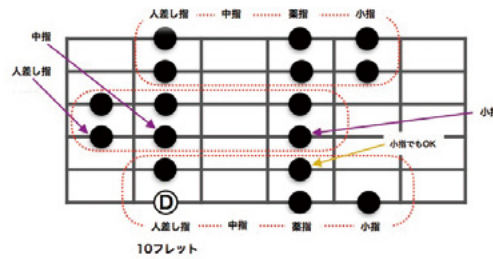


図5 Cメジャースケール ブロックD

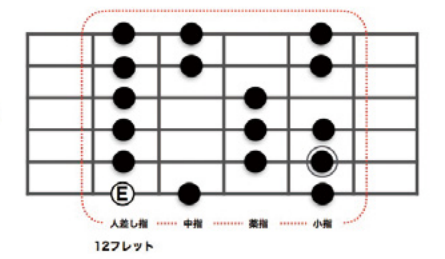


図6 Cメジャースケール ブロックE

基本を笑う者は基本に泣く！

みんなのできる基礎練習

スケール練習 ボーカル編

歌はただ何度も反復して歌っているだけでは上達しません。特にテクニカルな面では、歌の基礎的なスキルがないと様々な応用していくことは難しくなります。それは、野球で直球が投げられないと変化球が投げられないのと同じです。近年の中高生が好むロックやポップスの流行歌は、応用的な歌唱力が必要となる曲が多くなってきています。まずは、しっかりとした基礎を身につけましょう。

第3回では「発声の基礎練習」に関して記しましたが、今回はもう1つの基礎である「音程の練習」について記していきます。歌は、発声がしっかりできていたとしても、実際にメロディーを歌った時に音程がズレていては意味がありません。ギターやベースの場合は、メカニカルに指板の押さえる場所（キーボードは鍵盤の場所）を覚えれば、音程を外すことはありませんが、ボーカルは「声」で音程を操作しなければなりません。ボーカリストが最も音程の練習をしなければいけないパートだと言えます。

例えば、カラオケにガイドメロディーが入っていると、苦手なメロディーが少し歌いやすくなります。しかし、これはガイドメロディー

を聴いて後から追いかけて歌っているだけなので、ちゃんとメロディーを歌えているとは言えません。本来は、伴奏を聴きながら自分自身の身体の中にメロディーの変化を感じ、タイミング良く音程をコントロールできることが理想です。歌のメロディーと伴奏とのハーモニーをしっかりと感じて歌えるようになれば、「音程がとれない」「高い音域から低い音域に一気に変わるメロディーを歌えない」「複雑なメロディーを歌えない」といったような悩みが解決します。まずは、簡単にシンプルな練習から行って、音程をコントロールするための基礎力を上げましょう。

メロディーは「スケール」からできている

基本的に、楽曲のメロディーは「スケール（音階）」から作られています。スケールとは、一定の法則に従って並べられた音の列のことで、一番シンプルで基礎的なスケールは「メジャースケール（長調）」です。「ドレミファソラシド」というスケールのことを、ポピュラー・ミュー

ジックでは「ド（C）」から始まるスケールなので「Cメジャースケール（ハ長調）」と言います。この誰でも知っている基本的なスケールをきちんと発声することは意外と難しいものです。理由は8つの音の差が均等ではないからです。Cメジャースケールの場合、ミとファ、シとドは半音離れていて、他の音は全音（半音2つ分）離れています。この音の差がしっかりと身体に染み込んでいないと音程はとれません（譜例1）。さらには、「音の立ち上がり」や「音の切り替え」などをかなり正確に（ピアノの音のように）できないと、マイナースケール（短調）やキー（調）を変えた他のスケールに対応することは難しくなります。最初は1オクターブのシンプルなメジャースケールで、音程をしっかりと発声する練習をとことん行いましょう。

ちなみに、スケール練習の前には必ず発声練習を取り入れてください。しっかりとした腹式呼吸での正しい発声ができていると、スケール練習も意味がありません。

基本的な「スケール」の練習で「音程」の基礎力を高める

小さなシンセサイザーやスマートフォンのアプリなどでも構わないので、ピアノの音が鳴る物を用意してください。音程をしっかりと確認できるように、できればスピーカーなどにつないで生徒の皆さんの声よりも大きくピアノの音が出るようにしてください。

まずは、ピアノの「ド」の鍵盤を弾いて、その音に合わせて発声します。いきなり地声ではなく、発声練習の時と同じようにリップロール（第3回参照）で「1、腹式呼吸」「2、音程」「3、音の立ち上がり」「4、声の太さ」を確認しながら集中して行ってください。ドの次は、レ、そしてミ、ファ、ソ、ラ、シ、ドを1音ずつ同じように1、2、3、4を確認しながらリップロ

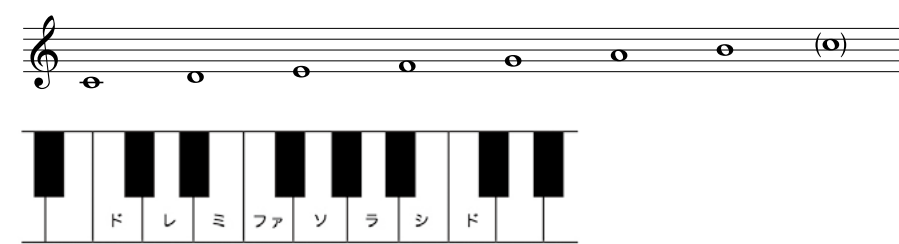
ールで発声します。それぞれの音程が確認できたら、メトロノームに合わせて「ド→レ→ミ→ファ→ソ→ラ→シ→ド」と続けた上昇形と、「ド→シ→ラ→ソ→ファ→ミ→レ→ド」という下降形で、Cメジャースケールの音程の差を練習します。その後、リップロールではなく地声の発声で同じことを行ってください。

スケールには、大きく分けるとメジャースケールとマイナースケール（短調）があり、基本的に楽曲はこのどちらかを基準としてできています。メジャースケールと一緒にマイナースケールにも挑戦してみてください。例えば、Cマイナースケール（ハ短調）の音は「ド、レ、ミ♭、ファ、ソ、ラ♭、シ♭」になり、メジャースケールと比べると3、6、7番目の音が♭（半音下がる）して、8つの音の幅が変わります。同じように1つ1つの音を確認しながら行ってください。

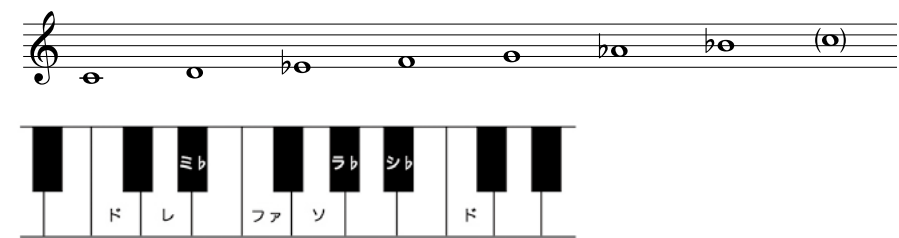
慣れてきたらスタートの音を変えて、レ（D）から始まるDメジャースケール「レ→ミ→ファ→ソ→ラ→シ→ド→レ」や、ミから始まるEメジャースケール、その後はファ（F）、ソ（G）、ラ（A）、シ（B）の各メジャースケールとマイナースケール（それぞれ3、6、7番目の音を♭させます）を練習してみてください。男子と女子が混在している場合は、どちらかをオクターブ上（あるいは下）で行っても構いません。

「スケール・シンギング」の練習で苦手な「音の差」を克服する

基本的なスケールの発声ができるようになったら、一歩進めた基礎練習として「スケール・シンギング」を行うとさらに効果的です。スケール・シンギングには「ステップワイズ」と「リープ」があります。ステップワイズとは、ドとレ、レとミ、ミとファ…など、スケール上の隣にある音を交互に発声する練習法で、リープは、ドとソ、レとラ、ミとシ…と、離れた音を交互に発声する練習法です。これらは、2つの音の差をきちんと発声できるようにする練習として効果があります。自然に発声できるようになるまでいろいろな音域で練習してください。スケール・シンギングを地道にやっていると、必ず苦手な音程やリープが見つかります。苦手な音だけを重点的に練習することで、難しい音程を克服することができたり、自分の声や歌が最も上手に聴こえる、自分に合ったキーの曲や歌い方が見つかるようになります。少し苦手な音が出てきたら、先にリップロールで発声してから地声で行うと上達のスピードが速くなります。



▲譜例1 Cメジャースケールの譜面とピアノの鍵盤の位置



▲譜例2 Cマイナースケールの譜面とピアノの鍵盤の位置

大事なことは、なんとなくではなく集中して行うことです。スケール・シンギングを1人ずつレコーダーで録音して聴き返すなど、1つ1つ丁寧に行ってください。ギタリストのチューニングメーターやチューナーアプリを使った「音程を一致させる訓練」も、ゲーム感覚で楽しく行えると思います。

基礎的な「ハーモニー」の練習で「和音」の感覚を育てる

ボーカリストは人数が多いと思うので、和音で音程の練習をするのも良いでしょう。基本的な和音は3声の「トライアド」です。メジャーコード（Cメジャーならド、ミ、ソ）とマイナーコード（Cマイナーならド、ミ♭、ソ）で、和音感をつかむための練習をしましょう。例えば、Aさん、Bさん、Cさんの3人1組、もしくはAグループ、Bグループ、Cグループの3組に分けて、Aが「ド」、Bが「ミ（マイナーならミ♭）」、Cが「ソ」を発声します。自分が出している音が他の人との3声の中で鳴っている意識が持てるようになるまで練習しましょう。曲の伴奏がメジャーで鳴っているのか、マイナーで鳴っているのかが自然と聴き取れるようになり、伴奏のコード感を聴きながらメロディーを歌えるようになります。

「メロ譜書き」と「楽器」を普段から行うことで土台を作る

全体練習としてのエクササイズではないのですが、音程を安定させるためには「メロ譜を書く」

ことと「楽器に触れる」ことが近道となります。これらは両方ともボーカリストが苦手とするところで、自分からは避けて通ることが多い部分です。

まず「メロ譜を書く」ことは、自分が発声する音が何の音なのか、前後の音とどのぐらい差があるのかを把握することに効果があります。本来は、正式な譜面の書き方にしたがって音符の長さや休符もキチンと五線紙に書いていく方が望ましいのですが、初めのうちは自分の歌いたい曲（今取り組んでいる曲）のメロディーの音程を五線紙に書き込んでいくだけでも構いません。

また、基本的にはボーカリストは楽器の演奏ができなくても良いのですが、メロディーの音程を知るためには楽器に触れることが一番です。ほとんど演奏できないレベルの、メジャースケールやマイナースケール、あるいはトライアドが弾けるだけでも十分です。楽器に触れて音程を探ることで、音を聴いて自分が発声するための相対音感も良くなり、最低限の音楽知識も身につきます。まったく楽器に触れたことのない生徒さんには、少し楽器に触れる機会を多くするように指導してあげてください。お勧めは、すべての楽器の基本であるピアノです。

ボーカリストは、なかなか自宅で練習ができないと思うので、「メロ譜書き」と「楽器に触れる」ことをさせていくことによって、音程をとる基礎的な土台ができていきます。そういった土台作りと共に、部活動で全体練習をすることで効果はさらに上がります。

文・伊丹谷良介



基本を笑う者は基本に泣く！

みんなのできる基礎練習

キーボード基礎練習

軽音楽部でキーボードを担当する生徒の中には、小さい頃からピアノやエレクトーンを習っていた経験がある人が多いように思います。譜面の読み書きができて、鍵盤である程度音楽を奏でられる、発表会の舞台上に立った経験もある…など、軽音楽部に入部して初めて楽器に触れる生徒に比べると大きなアドバンテージであり、キーボードは経験者と初心者の差が他のパートよりも大きいのではないかと思います。今回は、初心者向けのメニューを紹介しますが、ピアノ経験者にとっては小さな頃から行っていることでもあると思うので、そういった生徒は「指導役」にまわってください。他人にものを教えるということは、自分自身にとって勉強になります。

さて、今回は、主に鍵盤をスムーズに弾けるようになるための「運指」にスポットを当てたエクササイズ・メニューになります。音楽には、スケール（音階）にもコード（和音）にも「メジャー」と「マイナー」の2種類がありますが、キーボードの全体練習としては「メジャー系」のみを使って行えば十分だと思います。また、ポピュラー・ミュージックでは左手の活用頻度が比較的低いので、初心者が多い場合は右手だけでも構いません。

シャープ系メジャースケールの右手の運指練習

ピアノの練習においては、両手の指に親指から小指に向かって1、2、3、4、5と番号をつけていきます。キーボード担当の生徒への指導に役立つと思いますので、ピアノの経験のない先生も、この機会にぜひ覚えておいてください。

メジャースケールは「シャープ系」と「フラット系」に分かれます。譜面に表す時に、シャープを使うか、フラットを使うかというだけです。シャープ系のメジャースケールを右手で弾

く場合は、1番目と4番目の音を「1の指（親指）」で弾きます。「Cメジャースケール（ハ長調）」を例にすると、親指で弾く音はC（ド）とF（ファ）になります。その結果、3つと4つの「かたまり」として捉えることができ、「ドレミファソラシド」と上昇して弾く場合の運指は、親指から始めて「12312345」、「ドシラソファミレド」と下降する時は、小指から「54321321」となります。この規則性と「形」が理解できたら、Cメジャースケールを2オクターブで上下します。運指をスムーズに行うために少し指使いが変わるので注意してください（図1）。指を入れ替える場所と指の種類を意識して「3、4、3、4～」と頭の中で数えながら弾くとやりやすいと思います。

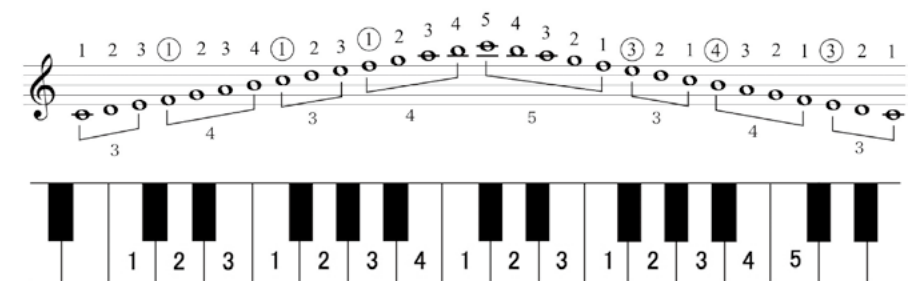
慣れてきたら、メトロノームを使ってリズムの中で行いましょう。最初は4分音符で、次に8分音符、16分音符と、だんだん細かくして

いきます。音数が増える（細くなる）ことによって、音量がバラついたりリズムが崩れることがないように、テンポキープを正確に演奏することを心がけてください。ポピュラー・ミュージックを演奏する上で、テンポキープは何よりも大事なことなので、指導のポイントにしてください。

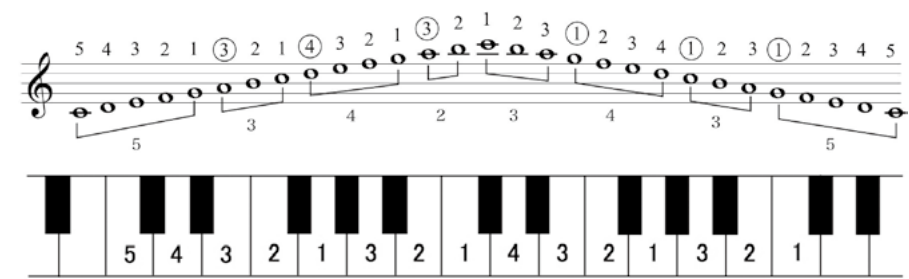
余裕があれば、他のメジャースケールでも行って欲しいのですが、Cメジャースケール以外はシャープが付いて黒鍵を弾く音があるので注意してください。

シャープ系メジャースケールの左手の運指練習

右手の次は「左手」です。左手の運指は右手と異なり、5の指（小指）から弾き始めることになります（図2）。右手の時と同じように、C



▲図1 Cメジャースケールの右手の運指（2オクターブ）。○で囲った数字は指の入れ替え場所



▲図2 Cメジャースケールの左手の運指（2オクターブ）。○で囲った数字は指の入れ替え場所



メジャースケールで指を入れ替える場所と指の種類を確認しながら弾いてみましょう。慣れてきたら、こちらも右手と同じようにメトロノームを使って2オクターブを上下する練習をしましょう。

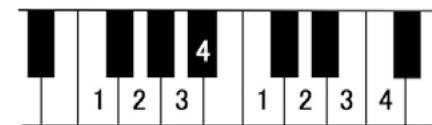
右手と左手を別々にそれぞれ練習したら、両手同時に行います。ピアノ未経験者にとっては少し難しいかもしれませんが、キーボードを弾くための基礎的な運指なので頑張って地道に練習してください。

フラット系メジャースケールの運指練習

キーボードの全体練習としては、シャープ系メジャースケールだけでも十分ですが、応用編として「フラット系メジャースケール」の練習方法も説明しておきます。フラット系のメジャースケールを右手で弾く場合は、親指からスタートしないことが多くなります。しかし、規則性の1つとして、FとCに親指を置くことが基本です。Fの位置に親指を置くと、人差し指、中指、薬指が黒鍵を自然な形で弾くことができます。指を置く位置の確認ができれば、Fの音をスタートにして「Fメジャースケール」を弾いてみましょう。Fメジャースケールは、B（シ）の音がフラットするので、4の指（薬指）が黒鍵のB♭を押さえることになります（図3）。2オクターブ弾く場合は、オクターブ上のFの音を1の指（親指）に変更します。シャープ系メジャースケールとは逆に、4つと3つのかたまりになっていることを意識しましょう。

次は「左手」です。左手の場合も同じようにFをスタートにして小指から弾いてください（図4）。今度は2の指（人差し指）でB♭

の音を弾くことになります。2オクターブの場合は、オクターブ下のFの音を1の指（親指）に変更します。スムーズにできるようになったら、メトロノームを使って両手同時に行ってみましょう。



▲図3 フラット系メジャースケールの右手の運指



▲図4 フラット系メジャースケールの左手の運指

コードのいろいろな押さえ方を習得する練習

ポピュラー・ミュージックは、「コードの音楽」と言われるほど「コード」に重要性があります。しかし、譜面に書かれたコードをどうやって押さえるのか、どのように演奏したら良いのか…

ということに「これだ！」という正解はありません。しかも、楽曲のテンポやボーカルの声域、他の楽器との音域などを、演奏しながらリアルタイムに考えて演奏する必要があります。そういった意味では、ポピュラー・ミュージックには、譜面に書かれたことを再現する部類の音楽とは違った難しさがあり、1つのコードネームに対してどれだけ多くの押さえ方ができるかという知識とセンスが大切になってきます。

その助けとなりコード練習の基礎となるのが「転回形」です（譜例）。転回形とは、「基本形」の構成音のボイスン（音の積み方）を変えていったものです。練習方法としては、最初に基本形の構成音を確認して弾き、そのあと続けて4つの転回形を順に押さえていきます。スケールの時と同じように、メトロノームを使ってリズムの中で練習するようにすると良いでしょう。メトロノームに合わせながら、迷うことなく転回形を順番に弾けるかがチェックポイントです。これを左手で行うこともさらに効果的ですが、初心者などで難しい場合は右手だけでも構いません。

コードの構成音を理解できているのであれば、他のメジャーコードでも同じように練習してみてください。基本形を押さえる鍵盤の位置を視覚的に把握できると、指の動きの迷いが軽減されるので、まずは基本形でしっかりと鍵盤の配色パターン（白鍵と黒鍵）を頭に入れましょう。この配色パターンを覚えておくと、マイナーコードもスムーズに押さえることができるようになります。

余裕があれば、黒鍵をルート音とする、主にフラット系のコードであるD♭、E♭、A♭、B♭、G♭の各メジャーコードも、同じように形を分類して視覚的に把握しながら練習してみてください。また、鍵盤パートが何人かいる場合は、誰かがリーダーとなり、リーダーがコードの基本形を弾き、他の人がそのキーのスケールを1オクターブ（慣れてきたら数オクターブ）で往復して弾く、あるいは転回形を弾くといった、グループ練習も効果的だと思います。

文・竹中啓一



▲譜例 Cメジャー・コードの基本形と転回形。ゆっくりなテンポから始めてください

軽音
ちゃん
ねる



出場バンドの演奏映像を YouTubeで公開中！



QRコードを読み
取って、チェック！

2020年から最新の夏大会（2024年）まで、
全国学校軽音楽部協会主催の大会に出場した
583バンドの演奏映像を視聴できます。プロ
ジェクターで動画を映し出したり、部のPAシ
ステムで音声を大きく出力するなどして意見
交換や検証を行うなど、部活動全体はもちろ
ん、各バンドや個人でも、他校のバンドから
学び、演奏技術やパフォーマンス、ステー
ジでの振る舞いの参考に活用してください。

第15回

愛知県高等学校軽音楽大会

30 バンド



特定非営利活動法人
全国学校軽音楽部協会
keionkyo.org



第5回

高等学校軽音楽コンテスト
関東大会

25 バンド



第8回

高等学校軽音楽コンテスト
近畿北陸大会

19 バンド



第10回

高等学校軽音楽コンテスト
中部大会

20 バンド



第1回

高等学校軽音楽文化祭
国際大会

8 バンド



人のプレイ見て我がプレイ直せ

YouTube の演奏映像を見るポイント

軽音協のYouTubeチャンネルは、学内外での軽音楽部の宣伝や記念として活用していただくと共に、「他校との違い」を研究する良い材料になります。音楽的なチェック・ポイントを挙げてみますので、良いプレイは参考にし、まだまだな部分は反面教師として、部員たちと一緒に何度も見てモチベーション・アップ、ステップ・アップへとつなげてください。

プレイ

大会において、いくら個人力より総合力（アンサンブルや演奏のまとまり）を重視して審査しても、やはり技術力が高い方が有利になることは間違いありません。単純に、上手なバンドの演奏を見るだけでも部員のモチベーションは上がると思います。「あんな風に歌ったり演奏してみたい」という憧れは、大きな原動力となるでしょう。しかし、本当に見るべきポイントは、「上手さ」ではなく「巧さ」です。高い技術力を使っていかに楽曲を表現し、アンサンブルにマッチさせているか。自己表現だけではなく、合奏のために身につけた技術を使っているか…は、研究してみる価値がある部分です。

また、賞を獲るようなバンドに共通しているのが「リズムの良さ」です。個人個人もそうですが、バンドでのリズムの一体感をどれだけ重視しているかは、総合力として表れます。リズムの良さは、スタッカート、テヌート、音価、強弱、アクセント、シンコペーションといった音楽的な部分の習熟に表れるとも言えます。

パフォーマンス

パフォーマンスと言っても千差万別ですが、「見られている」と「見せている」ではステージングに大きな違いが出ます。いわゆる「発表会」とポピュラー・ミュージックの「ライブ」では目指す目標が少し違います。軽音楽はエンターテインメントなので、何かを「伝える」意識も必要です。当然、慣れもありますが、ステージ内だけを気にして演奏しているのか、ステージの外の観客に向けて全員で何かを伝えようと演奏しているかは、大きな差となって出てきます。

初歩の段階では、リズムに乗って体を動かし、キメやアクセントを体が動くくらい大きく捉える、他メンバーと合わせるべきところを体を使って行う…といったことを意識するだけでも見え方はだいぶ変わります。個人の例で言えば、しっかりと前を向いてプレイしているか、顔の表情を意識しているか、演奏中にメンバーとアイ・コンタクトを取っているか、歌ったり演奏していない時に気が抜けていないか…などもチェックしてみてください。特にフロント・マンであるボーカリストは、手の使い方や目線なども重要です。

機材、サウンド・メイク

ギター・アンプやベース・アンプといった大会の常設機材は、普段学校で使っているものと違う機種になります。同じ型番であっても個体差があるので音は変わります。当日にあたふたしないためにも、現在ではエフェクターを使って音を作り、アンプによる音の変化を少なくすることが一般的です。使用機材が一緒なのにも関わらず、バンドごとにサウンドが違うことや、楽曲に合った音作りをしているかも注目して欲しいポイントです。

ギターとベースは、チューニングにも注意が必要です。初心者の方はそこまで気がまわっていないことも多々あります。また、楽器本体

の調整ができていなかったり、変則チューニングに全員が合わせていなかったりすると、せっかくの演奏も台無しになってしまいます。

サウンド面に関しては、キーボードも同様のことが言えます。キーボードを持ち込んだバンドは、音色の調整をしていることがほとんどです。また、ドラムのペダルやスネアも普段との違いに苦しみ可能性があります。スネアやペダルを持ち込んでいないドラマーは、違和感を感じながらプレイしているかもしれません。

楽曲

コピーの場合、注意が必要なのは「選曲」です。レベルに合っていない楽曲であれば、ミスが多くなるのも当然です。挑戦と確実性とのバランスが難しいですが、各バンドのレベルと選曲をアナライズしてみても面白いと思います。

また、全国ではオリジナル曲を作っている学校やバンドが増えています。楽曲自体の良し悪しではなく、その「創作過程」を推し量ることも参考になります。メンバー間で意見を出し合い、きちんと「揉め」ながら1つの作品を作ってきたか、お互いを尊重しながら自分の居場所を理解し、「One for All, All for One」になっているか、皆んなでメッセージを伝えようとしているか…といった辺りを探っていくと、バンドとしてのまとまりが見えてきます。



第3回 高等学校軽音楽コンテスト 中部大会 グランプリ
カカオ 52% / 愛知県立岩倉総合高等学校
まさに総合力の勝利。全員のリズムのキレが心地良い



第8回 愛知県高等学校軽音楽大会 奨励賞
すずらん / 名古屋経済大学市邨高等学校
大人数でのオリジナル曲。演奏のまとまりが強い

CONCERT
STAFFRECORDING
ENGINEER

ACOUSTIC MEDIA DEPT.

CONCERT EVENT DEPT.

2025年度 八王子校に
ダンスパフォーマンス科新設!

It all begins here!

新ダンススタジオ完成!!
(八王子校)

DANCER

DANCE PERFORMANCE DEPT.

コンサート・イベント科 職業実践専門課程

●コンサート制作コース ●コンサートPAコース ●コンサート照明コース
●コンサート舞台コース ●イベント企画コース

ミュージックアーティスト科 職業実践専門課程

●サウンドクリエイターコース ●ヴォーカリストコース ●プレイヤーコース

音響芸術科 職業実践専門課程

●レコーディングエンジニア専攻 ●MAエンジニア専攻 ●ラジオスタッフ専攻

ダンスパフォーマンス科 職業実践専門課程(蒲田校のみ)

●ブロードダンサー専攻 ●バックダンサー専攻 ●ダンス&ヴォーカル専攻
●コレオグラファー(振付)専攻 ●ダンスインストラクター専攻
●テーマパークダンサー専攻

※2025年度 八王子校新設

MUSICIAN

VOCALIST

MUSIC ARTIST DEPT.

日本工学院 ミュージックカレッジ

日本工学院専門学校

日本工学院八王子専門学校

☎0120-123-351 〒144-8655 東京都大田区西蒲田5-23-22 ☎0120-444-700 〒192-0983 東京都八王子市片倉町1404-1

https://www.neec.ac.jp/

LINE @nihonkougakuin

X @neec_official

Instagram @nihonkogakuin

入学願書
受付中!マネー
ジャーの
仕事行動力が自身の
成長につながります

音楽やエンタテインメントにまつわる職業や業界は多岐に渡りますが、一体どんな世界なのでしょうか。今回はマネージャーの仕事について、日本工学院専門学校/コンサート・イベント科の砂場成朗先生に伺いました。

日本工学院専門学校/日本工学院八王子専門学校

— マネージャーのお仕事全般について教えてください

砂場：私自身、大手事務所でアーティストマネージャーとして勤務していましたが、仕事の内容は多岐に渡ります。よく挙げられるもので言うと、「①スケジュール管理」や「②ライブ・メディア出演時のサポート」あたりだと思います。

細かく紐解いていくと「①スケジュール管理」では、そもそも受けるべき仕事なのか、前後の稼働(場所/時間)を考慮して受けられるものなのかといった、「アーティストファースト」の思考を持ちながら様々な業務を遂行しなければいけません。

「②ライブ・メディア出演時のサポート」では、衣装をはじめ、ライブやメディアに出演する際のライブスタッフ/メイク/衣装などのスタッフの管理など、決してアーティストのスケジュールだけを管理するものではありません。本番に向けたリハーサルスタジオ、さらには、そのスタッフの手配など、1つの仕事に対していくつものタスクがあり、それらを器量よく、何よりもアーティストに100%のパフォーマンスをしてもらえる環境を作るのが、マネージャーにとって非常に大切な仕事だと考えています。

— 入学前に、ある程度の知識は必要ですか。高校時代にやっておいた方がよいことも教えてください

砂場：エンタテインメントのお仕事なので、関係者でないと見れない・知ることのできない業務が多々あります。そのため、ネットや人から聞く話で偏った知識を得るのではなく、「より多くのライブへ行く」「より多くのジャンルの音楽を聴く」「ライブDVDのエンドロールに出てくる会社を調べる」といった、今からでも、誰でもできる「好きを仕事にするための行動力」

を身に付けておくことが大切だと思います。この「行動力」がすべての物事に対しての自分自身の成長につながるはずです。

— マネージャーのお仕事の楽しいところや、やりがいを感じる瞬間を教えてください

砂場：今まで自分が見ていた「アーティストが音楽をファンに届ける」、その過程を間近で見られるだけでなく、携わった作品やライブで感動しているファンの姿を見ると、エンタテインメントでしか得られないやりがいを感じることができる、唯一無二の仕事だと思います。

— マネージャーのお仕事は、どんな人にオススメですか?

砂場：自分自身が信じられる存在のために、苦労や努力を惜しまない方だと考えています。携わるアーティストやタレントを通して、国内外のどこかにいる誰かをどれだけ幸せに、人生を豊かにすることができるか、そこにやりがいや達成感を感じられる、そんな人にマネージャーという仕事がオススメです。

— マネージャーの仕事続けるのに大切なことは何でしょうか? 3つほど教えてください

砂場：1つ目は「報連相(報告・連絡・相談)」です。これは上司だけでなく、アーティストにも報連相をすることが大切です。現場のマネージャーだけでは判断できないことが多々起こり得るのですが、そういった時に自分だけの判断で行動しないことが吉です。1人で仕事をしてしまうと、周りのスタッフも離れていきますし、アーティストの信用を失うと、いよいよマネージャーという仕事続けるモチベーションが保てなくなると考えています。

2つ目は「常にアンテナを張っておく」とい

うことです。エンタテインメント業界は常に進化しています。SNSの流行り廃りのスピード感もそうですが、世の中に出ている技術や演出も1年、2年前には構想されているもの、もしくはアメリカや韓国では数か月前に流行ったものが多く、日本はやはり遅れを取っているように感じることがありました。アーティストはクリエイティブなアイデアや斬新なものを求めているので、会話の中でもそういったことが話題になるので、音楽のみならず、配信サービスやSNS、技術系の分野から最先端な情報を集めておくことが大切です。

3つ目は「2つ、3つ先を考えること」。これは、どの仕事にも言えることですが、目の前のことだけを一生懸命に取り組むのは学生の間だけです。1つのライブやリリースを行うまでには、いくつもの過程があり、またその後の展開も必ず考えておかなければいけません。ツアーを例に挙げると、ライブが終わったらアーティストはこの後、何時にどうやって移動するのか、明日はどこへ何時に行くのか、またそれに伴う必要な衣装などはあるのか…と、無限に想定をしておかなければいけません。今の時代ですと「楽曲がバズった時の初動は想定できているのか」という点は、特に若手アーティストにとっては重要かもしれません。



▲アーティストが万全なパフォーマンスをする環境を作ります

エンタメ&クリエイティブの専門学校



VISUAL ARTS

東京 / 名古屋 / 大阪 / 福岡

ビジュアルアーツ・アカデミー

ACADEMY

Akademeia 21st Century



ミュージシャン
声優・俳優・タレント
ダンス・ダンスボーカル
ネットタレント・インフルエンサー
映像クリエイター (3DCG・VFX)
テレビ放送・映画スタッフ
コンサート・舞台スタッフ
レコーディングエンジニア
サウンドクリエイター
映像音響 (MAエンジニア)
写真・デザイン
マスコミ出版
芸能マネージャー
特殊メイク

※地区によって教育分野が異なります

大学も専門学校も超える新たな学びの場



21世紀アカデメイア
Akademeia 21st Century

専門学校 東京ビジュアルアーツ・アカデミー
(2024年4月 専門学校 東京ビジュアルアーツより校名変更)

専門学校 大阪ビジュアルアーツ・アカデミー
(2024年4月 ビジュアルアーツ専門学校より校名変更)

専門学校 名古屋ビジュアルアーツ・アカデミー
(2024年4月 名古屋ビジュアルアーツより校名変更)

専門学校 福岡ビジュアルアーツ・アカデミー
(2024年4月 専門学校 九州ビジュアルアーツより校名変更)

音響の仕事
(ライブハウス)



専門学校大阪ビジュアルアーツ・アカデミー

仕事への向上心や 探究心が大切です

音楽やエンタテインメントにまつわる職業や業界は多岐に渡りますが、一体どんな世界なのでしょう。今回はライブハウスにおける音響の仕事について、専門学校大阪ビジュアルアーツ・アカデミー／音響芸術学科の東 明日香先生に伺いました。

ー ライブハウスにおける音響のお仕事について教えてください

東：ざっくりと説明すると、ライブハウスのステージで演奏を披露するミュージシャンの対応になります。それとは別で、イベントや企画内容によっては、音響を担当するオペレーターも主催者側が用意することもあるので、その際はライブハウス側は会場の管理や運営に徹します。ライブやイベントで音響のオペレーターをしたり、ステージスタッフとしてマイクをセッティングしたり、楽器やアンプ類を設置するか、ライブハウス側が音響を担当しない場合は、会場や付帯設備の管理業務がメインになります。

ー 入学前に、ある程度の知識は必要ですか。高校時代にやっておいた方が良いことも教えてください

東：入学後に基礎的な部分から丁寧に講習を行うので、事前の知識などは特に必要ありません。趣味で楽器の演奏ができた、歌うのが好きなのであれば、そのくらいで十分です。音響の知識というよりも、ギターやベース、ドラムやキーボードなどの楽器の扱い方や音の出し方を知っているのが理想的かもしれません。演奏はできなくても構わないので、基本的なセッティングの仕方がわかっていると役に立ちますし、音響担当者としても必要な知識の1つだと思います。

ちなみに、本校の音響芸術学科に進学する学生で軽音楽部の出身者は、年度にもよりますが、大体3割くらいです。今の2年生は軽音楽部出身者が多いのですが、1年生は少ないなど、ややバラつきがあります。他には、通っていた高校に軽音楽系の部活動がなかったり、趣味で楽器を演奏していたり、小さい頃に習い事でピアノをやっている...という学生もいます。

音響芸術学科に進学した理由やキッカケは人

によって様々ですが、高校時代に軽音楽部に所属しており、楽器を演奏しながら、音響の仕事にも携わっていたので興味が湧いた...という場合と、プロのアーティストやアイドルのコンサートに足を運んだり、ライブDVDなどを観ているうちに音響の仕事に憧れて...という2つが大きいと思います。

ー ライブハウスにおける音響の楽しいところや、やりがいを感じる瞬間を教えてください

東：会場の規模にもよりますが、コンパクトなライブハウスの場合は、基本的に同じアーティストが出演することが多く、週に一度くらいのペースでステージに立っています。そんなアーティストの音響を担当しているうちにブラッシュアップしていくと言うか、オペレーターとしてアーティストに認めてもらえた時が特に楽しいと感じる瞬間だと思います。他にも、終演後に退場するお客さんの満足そうな笑顔とか、自分がオペレーターをしている最中にステージを見ながら泣いているお客さんを顔などを見ると、そんな素敵な仕事に携われていることに大きなやりがいを感じます。

ー ライブハウスにおける音響のお仕事は、どんな人にオススメですか？

東：「音楽が好き」というのは大前提として、同じところ（職場）で、ずっと同じことをできる人が向いていると思います。音響のオペレーターは各地の様々な現場に行って、いろいろな会場でPAシステムを組み、業務にあたるのですが、ライブハウスの場合は変わり映えしないんですよね。そのため、同じところで、ずっと同じ仕事ができる人には向いていると思うのですが、いろいろな現場に赴いたり、様々な会場で小規模～大規模なライブやイベントの音響に

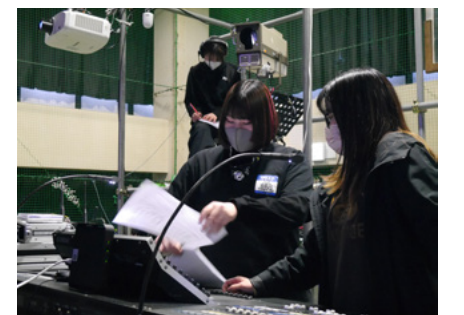
従事したいと考えている人には、あまり向いていないかもしれません。音楽が好きで、いつものライブハウス...言い換えると「自分の城」のような場所で、いつもの仕事をするのが好きな人には、最高の職場であり、仕事だと思います。

ー 音響の仕事続けるのに大切なことは何でしょうか？

東：先ほども説明したとおり、ライブハウスの場合は同じ場所で、同じ業務をすることになるので、そこで自分が「どれだけ成長できるか？」という向上心や探究心が大切になります。

一方で、アーティストだけでなく、音響のオペレーターも乗り込みで来店されることもあるので、その際はきちんとコミュニケーションが取れて、困っていることはないかななどの細やかな気遣いができると良いですね。ライブハウスはスタッフの対応の如何で、次回も利用してくれるかどうか大きく変わってくるので、「また利用したい」としてもらえるためにも、自分から積極的にケアをいいたいといけません。

また、出勤する時間帯が早い時もあれば、午後からの場合もあるなど、不規則な生活リズムになりがちなので、体調管理をしっかり行い、時間や期限もきちんと守れるのが何よりも大切だと思います。



▲資料を元にセッティングなどを確認します